

2024年度 赤井川村 DMO 活動報告

2025.3

一般社団法人 赤井川村国際リゾート推進協会

主な取組報告（地域に根付いた取組を紹介）

【観光づくりへの取組】 期間 2023年4月～2024年3月

- インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業。

事業名 『世界が魅了する広大な白銀の世界を縦横無尽に動きまわる！

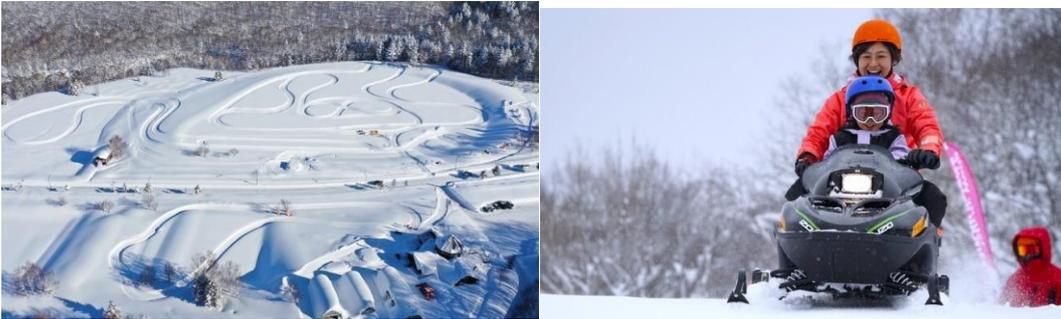
ここならではの高品質な非日常体験！新しいスタイルで取り組む
スノーアクティビティ商品開発事業』

実施場所：キロロリゾート

実施期間：2023年12月～2024年3月末日

事業内容：ウインターシーズンの観光コンテンツ開発として、スキー場と連動し
スノーアクティビティワールドの企画開発を行いました。

事業報告：初年度の来場者は、1,548名 来シーズンの本格的な事業スタートを目指して
PV制作やパンフレット制作を行う。初年度の実施コンテンツ7種目達成。



【公共交通事業】

主な事業 小樽・札幌線スキーバス事業、村バス運行のバックアップ。

事業目的 本格的に稼働を開始した村バス運行の安定的サービスを確保する為の人材・車両の
提供等、スキーリゾートと連携しながら地域の公共交通をサポート。

スキーバス事業においては、観光誘客の重要な足を確保する為に、より一層

スキーバスの需要拡大に対すべく、交通事業者及び旅行業事業者と連携して車両の
確保に向けた、公共交通の整備に取り組む。

事業実績

小樽線：スキーバス乗車人数	8,236名	対前年 126%	6,521名
札幌線：スキーバス乗車人数	3,324名	対前年 148%	2,253名
スキーバス合算：乗車人数	11,560名	対前年 132%	8,774名

【特産品開発事業】

事業目的 赤井川村特産品の消費拡大と赤井川村ブランドのPRと商品開発を
 ブラッスリーAkaigawaにて進めました。

活動状況 赤井川村のかぼちゃを1次加工し冷凍保存したペーストを小樽にある食品加工
 会社にて、クリーミーな饅頭とプリン、パンかまを製造。

秋の赤井川村のイベントにおいても販売。

初年度の販売実績は、かぼちゃまんじゅう 1020 個、プリン 1100 個、パンかま 3,000 本。



ゲレンデレストランで販売したかぼちゃのプリンと饅頭。イベント会場で販売したパンかま

赤井川村観光 PR 事業、協議会への参加活動

【第1回 まるっとカルデラ農村フェス事業】 赤井川村と地域の事業者で協力。

事業目的 新たな村おこし事業として、観光協会、商工会と連携してた事業を立ち上げる。
 DMO は、新事業の立上げの実行委員会事務局プロジェクトリーダー担当。

実施日： 2023年9月9日(土)、10日(日)

事業実績：来場者人数 6,000 名 目標人数 2,000 名を上回るお客様にご来場頂きました。



【赤井川村の特産品 PR をスキー場にて開催】

事業名 『AKAIGAWA FOOD FESTA』

実施日 2024年2月23・24・25日 3日間

事業目的 赤井川村の特産品 PR と観光事業の活性化

実施内容 ご来場のお客様に、赤井川村の特産品のサービス。

赤井川村産豚汁、かぼちゃまんじゅう、パンかま等のサービス。

山中牧場の牛乳を使った、特製ココアを期間中 800 名様に配布。

【赤井川村農泊事業 『赤井川村農泊推進協議会』】

事業名 『赤井川村農泊事業』 中核団体として3年目を迎える。

採択事業者 赤井川村農泊推進協議会

事業目的 農畜産業を通じた観光促進事業。

事業内容 収穫体験：延べ人数 153 名

宿泊事業：トモ・プレイパーク等

赤井川村の農産品セット（バーベキュー）の提供

商品開発：かぼちゃ饅頭、かぼちゃのスープ（ブラッスリー赤井川）

農村フェス：パンかま、かぼちゃプリン（農村フェス）

実証試験：スプラウトニンニクの生産



【DMOの活動の意義・内容・成果、KPI】

(登録)【地域DMO】一般社団法人赤井川村国際リゾート推進協会

様式2

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
北海道 余市郡 赤井川村
【設立時期】2020年7月31日
【設立経緯】
区域に観光協会があったが役割分担等をした上でDMOを新設
【代表者】渡邊 裕文
【マーケティング責任者(CMO)】栗原 有希
【財務責任者(CFO)】小野寺 順一
【職員数】5人(常勤2人(正職員1人・出向等1人)、非常勤3人)
【主な収入】
収益事業 21百万円、補助金(国、道、地域、企業) 8百万円
【総支出】
事業費 28.4百万円(5年度決算)
【連携する主な事業者】
赤井川村商工会、(有)赤井川ハイヤー、(株)KRH
(株)New KRH (株)AIR 新小樽農協同組合

KPI(実績・目標)

記入日: 令和6年 7月 20日

※()内は外国人に関するもの。

指標項目		2021	2022	2023	2024	2025	2026
		(R3) 年度	(R4) 年度	(R5) 年度	(R6) 年度	(R7) 年度	(R8) 年度
●旅行消費額 (百万円)	目標	()	()	2500	6600	6800	7100
	実績	936	599	4190	(5700)	(5900)	(6200)
●延べ宿泊者数 (千人)	目標	()	100	80	150	155	160
	実績	90	66	67.1	()	()	()
●来訪者満足度 (%)	目標	()	()	()	78%	80%	82%
	実績	()	72%	75%	()	()	()
●リピーター率 (%)	目標	()	()	4	4.5	5	6
	実績	1.5	3.8	4.2	()	()	()

戦略

【主なターゲット】
スキーリゾートを目的とした訪日外国人、FITパッケージ(長期滞在)の取り込。
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
海外メディア取材によるプロモーション強化
外資系ホテルの顧客ネットワークの活用
【観光地域づくりのコンセプト】
我が村の国際リゾートから始まる赤井川村のまちづくり。来る人、住む人、外国人国際化を目指して頑張ろう! 赤井川村

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
・日本最大級スノーアクティビティリゾートを目指した取組
敷地5Kmにも及ぶ広大なエリアを使っての雪遊び体験。
・地元特産品を使った料理開発。
パンかま(コーン、トマト)、かぼちゃプリン、かぼちゃ饅頭レストランにて販売。
【受入環境整備】
・交通結節点からのスキーバス運行、小樽・札幌発着定期便の就航。
インバウンドマーケットが回復したことを受けバス需要に応える。
【その他】
・地域の雇用確保に向けて、特定地域づくり事業協同組会の設立に向けた話し合いを、村、関係事業者と協議を進める



令和6年度事業計画について

1、観光促進事業

赤井川観光協会の解散により地域観光との関わりを断絶する事なく、できる限り DMO がその役割を担っていく。また、昨年立ち上げた『農村フェス』実行委員会としての役回りや農泊推進協議会の中核団体としての活動等、引き続き村との関わり、地域事業者との関わりを強化していく。

- ・農村フェス実行委員会
- ・農泊推進協議会 事務局
- ・村バス事業連携
- ・各種 協議会等の構成メンバーとしての参加。
- ・観光協会連盟等への参加 (3 組織)

地域観光事業の開発と促進に向けて、国、道の支援事業に対し積極的に参加し効果的かつ、経済的に徳のある取組を行って行く。 不安定な財源

DMO の主財源となっているリゾート事業者に対するフォローをしっかりと下支えできる取組を行って行く。 安定的な財源

- ・交通事業
- ・居住環境の整備
- ・コンテンツ開発
- ・夏期の観光事業 (雇用の確保)

2. 事業成果、事業投資による収入。

DMO が自己資金を投じて観光促進に係わる様々な事業に対して、利用状況に応じた請求をしっかりと行って行く。

- ・アクティビティ事業
- ・賃貸事業

3. 農泊推進事業

赤井川村の第1次産業を地域観光資源として活用する事を目的として DMO が中核団体として参加、リゾート事業と農村関連の事業者との結びつきが、今後の村の観光事業として大きな役割を担っている。赤井川村より 30 万の活動資金を受けていが、不足する財源を DMO が負担する。 概算予算 20 万

今年度は、自主財源の確保に向け、赤井川村のポテトチップスの商品開発事業を開始する。赤井川村より、商品開発支援金として 20 万程の補助を受ける予定。

以上。